

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.9	
Q1 室内環境									
1 音環境		-	-	-	-	-			
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-			
1.2 遮音		-	-	-	-	-			
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-			
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-			
1.3 吸音		-	-	-	-	-			
2 温熱環境		-	-	-	-	-			
2.1 室温制御		-	-	-	-	-			
1 室温		-	-	-	-	-			
2 外皮性能		-	-	-	-	-			
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-			
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-			
2.3 空調方式		-	-	-	-	-			
3 光・視環境		-	-	-	-	-			
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-			
1 昼光率		-	-	-	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-	-			
3 昼光利用設備		-	-	-	-	-			
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-			
1 昼光制御		-	-	-	-	-			
3.3 照度		-	-	-	-	-			
3.4 照明制御		-	-	-	-	-			
4 空気質環境		-	-	-	-	-			
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-			
1 化学汚染物質		-	-	-	-	-			
4.2 換気		-	-	-	-	-			
1 換気量		-	-	-	-	-			
2 自然換気性能		-	-	-	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-			
4.3 運用管理		-	-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.43	-	-	3.7			
1 機能性		-	-	-	-	-			
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-			
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-			
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-			
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-			
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-			
3 内装計画		-	-	-	-	-			
1.3 維持管理		-	-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.50	-	-	3.1			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準「3.劣化の軽減に関すること」で等級2相当	4.0	0.20	-	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	冷媒CUP(C)、給水VLP(B)、給湯SUS(C)、EIは不使用。	5.0	0.20	-	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	-			
2.4 信頼性		3.0	0.20	-	-	-			
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-			
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	-			
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	-			
4 機械・配管支持方法	耐震クラスA。	4.0	0.20	-	-	-			
5 通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-			

3 対応性・更新性			4.3	0.50	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1。	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床荷重:14700N/m ² 。	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	PF・電線管の打込み及びケーブルラックの採用にて構造部材を痛めることなく電気配線の更新・修繕が出来る。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	PF管の採用にて構造部材を痛めることなく通信配線の更新・修繕が出来る。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.6	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI _m =0.42、LED照明設備を導入。	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高規格電炉鋼板を利用している。	5.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	断熱材、床材料:複層ビニル床シート、小便器。	5.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。それにOAフロアを利用している。	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO ₂ 排出率が72%。	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止	燃焼機器は採用していない。	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な台数の自転車置き場及び駐車場を確保し、荷捌き用車両の駐車施設も確保している。周辺道路の渋滞緩和に資するものとして、大型待機場(5台分)を導入路部分に確保している。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明範囲を再検討している。広告物照明は、発光部分を点滅させない方法を採用している。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	